

子牛の臍、腫れていませんか？

根室西部事業センター 第二家畜診療課 獣医師 大井 一 阜

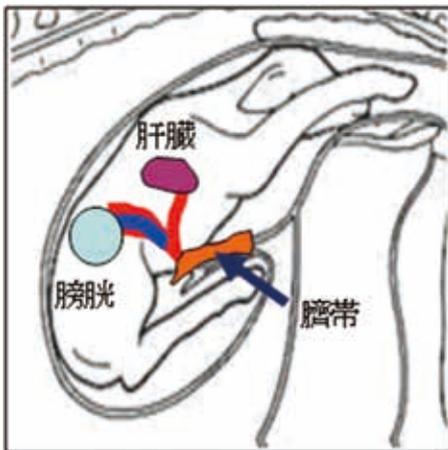


図1

子牛の臍帯は頭側から臍静脈、一対の臍動脈、尿管管の3つの脈管で構成されています。これらにより栄養や排泄物の受け渡しを行っているため、肝臓や膀胱など子牛の重要な臓器につながっています(図1)。

みなさんの農場では、臍が腫れている子牛はどのくらいいるでしょうか？ミルクを飲まなくなっておかしいなと思ってよく見たら臍が腫れていたという経験のある方は多いと思います。そのまま放っておくと、発育不良となったり販売価格へ大きく影響することもあります。防ぐためにはどのような管理が必要なのか、今一度考えてみたいと思います。

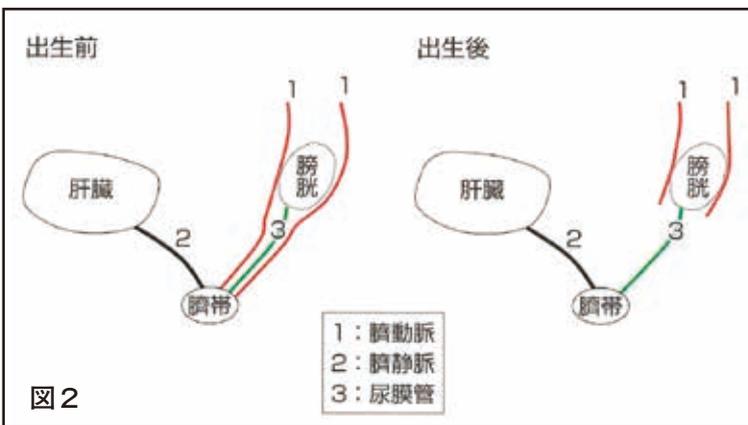


図2

分娩により臍帯が断裂すると臍動脈は収縮し、腹腔内に入り込みます。臍静脈と尿管管は断裂後も臍部に残り、徐々に退行し完全に閉塞するまで3週間かかります(図2)。

臍帯の感染は臍帯が乾燥するまでの生後1週間以内起こると考えられています。臍帯は腫脹・硬結し、熱感と疼痛が顕著になり、先端から膿汁が見られることもあります。感染が波及し臍静脈炎や臍動脈炎、

尿膜管炎として全身症状が現れるのは生後1〜3カ月に多いとされています。この時期に発見された牛は手術が必要になることが多く、また肝膿瘍や膀胱炎を発症していると、発育不良や敗血症を引き起こし治療が難しくなります。

生後1週間目での臍部の触診を習慣にすることで、臍帯炎を早期に見でき、炎症が比較的軽度状態で治療を開始できます。

また腫れているように見えても、柔らかく熱感や疼痛がないもの、内容を腹腔へ押し戻すことができる場合は臍ヘルニアと診断できます。腹腔に空いているヘルニア輪の大きさが約3cm以内(2指幅)であればテーピング処置で治療できますが、3cm以上の場合には外科手術が必要になることが多いです(図3…写真1)。

大きなヘルニア輪の場合でもテーピング処置で治療できることありますので、積極的に獣医師に診せてください。

臍疾患の診断フローチャート

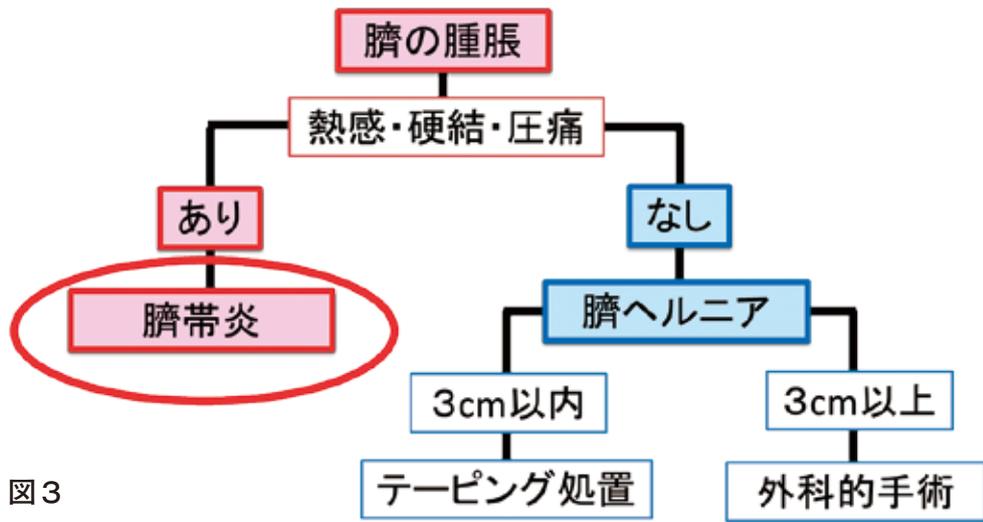


図3



写真1

臍帯の消毒について、現場で多く用いられているのはヨード剤ですが、2%の薄い濃度では敷料や糞などの有機物で消毒効果が消失してしまい、7%と濃い濃度では刺激性が強すぎ

て細胞を傷つけ臍帯炎のリスクを高めてしまいます。また、乳房炎軟膏を注入することは、薬剤耐性菌の問題と注入による臍帯内部の汚染のリスクから、お勧めできません。

有機物に強く、刺激性の弱い消毒剤として0.5%クロルヘキシジンの使用が推奨されます。

また、分娩環境と飼養環境が

清潔で乾燥した場所であること、良質な初乳を適切に給与して子牛の免疫を十分に高めることは、臍帯炎をはじめ腸炎や肺炎を防ぐためにも重要です。

分娩直後では臍帯に血液が貯留していることがあります。このままにしておくこと細菌が増殖する原因になるので、臍部の汚れを流した後、清潔な手指で臍の根元から絞るようにしてください。出血が止まらない場合は獣医師に診せてください。